

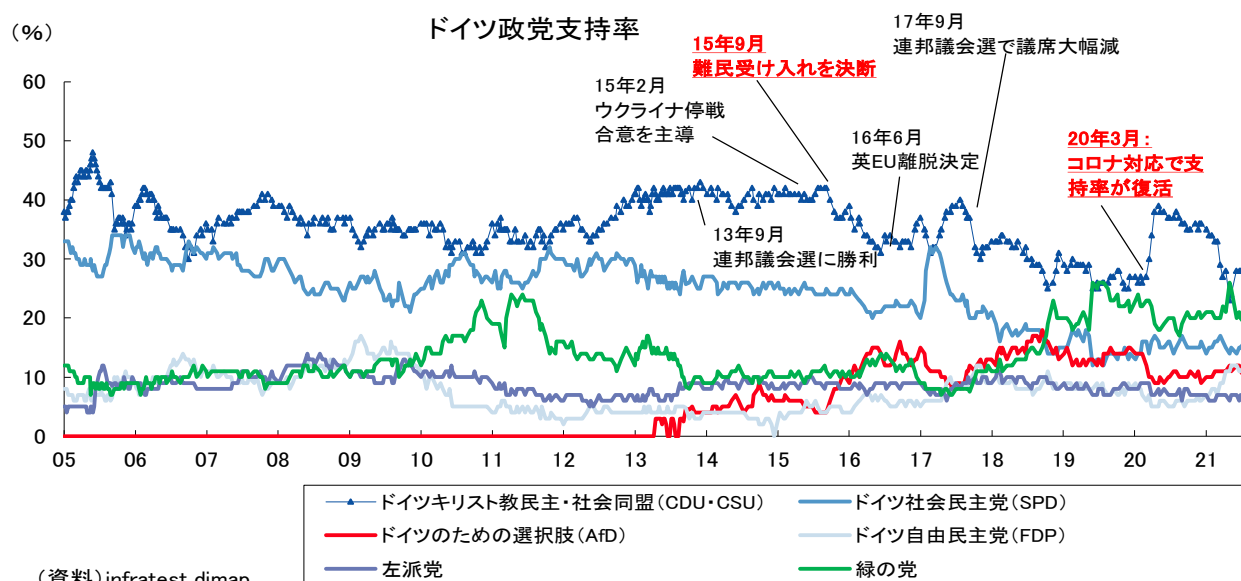
みずほマーケット・トピック(2021 年 8 月 19 日)

迫るメルケル退場～欧州の未来を問う選挙～

ドイツ連邦議会選挙があと約 1 か月に迫ってきた。選挙結果はどうあれ、2005 年 11 月以降、16 年間も続いたメルケル政権が幕引きされる。紆余曲折を経たが、与党・キリスト教民主同盟 (CDU) および姉妹政党であるキリスト教社会同盟 (CSU) への支持率は相応に安定している。環境政党である同盟 90/緑の党が CDU/CSU の後ろにつけるが、党首に対する様々な疑惑が足を引っ張り、もはや春先の勢いはない。むしろ、本稿執筆時点で支持率を伸ばすのは大連立の一角を担いながら近年、存在感が冴えなかった中道左派・社会民主党 (SPD)。現状、政党支持率 18～27% の間に CDU/CSU、同盟 90/緑の党、SPD がひしめく三つ巴状態。いずれの党も単独過半数は難しく、今回も連立政権発足に際し、長期の政治空白が生じる可能性。ドイツの経済・社会にとってショックが大きいのは「CDU/SPD の下野」シナリオ。アフター・メルケル時代を担うことになる次期政権は嫌われ者だったドイツのイメージを払拭し、EU の統合・深化にも大きな責任を負うことが期待される。今回の総選挙は「欧州の未来」を決める選挙とも言える。

～春先の勢いを失った環境政党～

ドイツ連邦議会選挙(9 月 26 日)があと約 1 か月に迫ってきた。選挙結果はどうあれ、2005 年 11 月以降、16 年間も続いたメルケル政権の幕引きが近づいている。過去 1 年半のコロナ禍を振り返れば、危機に強いと言われたメルケル政権もさすがに浮沈を経験した。昨春、世界がコロナ禍に怯える中、科学者としての顔も覗かせながら感染第一波の抑制に尽力したメルケル首相の立ち回りは高い評価を受け、与党・キリスト教民主同盟 (CDU) および姉妹政党であるキリスト教社会同盟 (CSU) も高い支持率を得た。しかし、昨秋から年明けにかけて到来した感染第二波から第三波では与党議員のマスク不正調達スキャンダルや英米対比で出遅れるワクチン接種が嫌気され、そうした状況



で展開される行動制限も与党離れを招いた。元より、2015 年 9 月の欧州難民危機から CDU/CSU の支持率低下は顕著であったが、その低下した分がコロナ対応で復元したところ、結局は 1 年かけてそれが剥落するという「往って来い」の軌道を描いている。CDU/CSU からすれば残念な展開かもしれないが、「コロナ禍でも支持率が大きく落ちることはなかった」と考えれば前向きな話でもある。

そうした政府・与党の失策が影響する格好で支持率が低下した部分もある一方、今や「環境」というシングルイシューがドイツ国内外で勢いを持つこともあり、環境政党である同盟 90/緑の党が CDU/CSU の支持率を削り落とすという動きも見られている。前頁図に示すように、今年 5 月上旬～中旬にかけては CDU/CSU と支持率が逆転するという現象も見られ、当時は環境政党からドイツの首相が誕生する可能性すら取りざたされた。だが、同党の共同党首であるベアボッグ氏に学歴詐称や著作における盗用疑惑などが立て続けに浮上して以降、支持率はピークアウトしている。また、現在のような有事に対処する能力に関し同盟 90/緑の党が CDU/CSU に遠く及ばないという点も周知の事実だろう。懸案だったワクチン接種率も気づけば米国(59.47%)を超え 62.87%を記録している(ともに 8 月 16 日時点)。感染状況の落ち着きを受け、「何だかんだ言っても CDU/CSU」というムードも漂う。環境問題は EU としての重要課題であるものの、公衆衛生の有事が続く中では「環境問題は二の次」というのが有権者の本音ではないか。それは当然の思考回路でもある。

～SPD 復調で三つ巴状態に～

かくして選挙本番まで 1 か月に迫った今、政党支持率(8 月 5 日調査時点)は CDU/CSU が 27% に対し同盟 90/緑の党は 19%と 8%ポイント程度の差がついている。今年 5 月 6 日調査時点では CDU/CSU の 23%に対し、同盟 90/緑の党は 26%と逆転していたことを思えば、もはや形勢は完全に CDU/CSU に傾いている。しかし、最後まで予断は許さない。7 月中旬に発生したドイツ西部における大規模洪水災害において、同月 17 日に被災地を訪問した CDU 党首兼ノルトラインウェストファーレン州首相であるラシェット氏が周囲の関係者と談笑している姿が「不謹慎だ」として批判を浴びるという事案が注目されている。7 月下旬には 30%に届こうとしていた CDU/CSU に対する政党支持率が頭打ちになっている一因とも言われる。

もっとも、それで同盟 90/緑の党への支持が復活しているわけではない。本稿執筆時点で支持率を集めるのは CDU/CSU でも同盟 90/緑の党でもなく、大連立の一角を担いながら近年、存在感が全く冴えない中道左派・社会民主党(SPD)である。SPD への政党支持率は年初の 14%から足許では 18%まで上昇しており、同盟 90/緑の党に肉薄する。要するに、政党支持率に関して 18～27%の間に CDU/CSU、同盟 90/緑の党、SPD がひしめく三つ巴状態であり、確実に言えることは、「いずれの党も単独過半数は難しい」という事実だろう。

～連立の組み合わせは多種多様、懸念される政治空白～

SPD と CDU/CSU の大連立継続は経済・社会面への変化が最も穏当なものだが、かねてより CDU/CSU と組むことでアイデンティティが埋没することを SPD は懸念しており、現在の大連立参加に際しても約半年間という政治空白を経てようやく実現したものだった。今回、大連立継続が決断されるにしても、再び長期間の政治空白が出現する可能性はある。

CDU/CSU の連立相手として SPD が使えないとすると、同盟 90/緑の党も候補に挙がる。この 2

党で過半数に届かない場合、リベラル政党である自由民主党(FDP)が加わることも考えられるが、同盟 90/緑の党のような経済成長に重きを置かない政党が FDP と合意形成を図るのは容易ではないだろう。「CDU/CSU+SPD」の連立同様、「CDU/CSU+同盟 90/緑の党+FDP」(いわゆるジャマイカ連立)も難易度が高い連立組み合わせである。また、上述したような三つ巴が続いているということは SPD と同盟 90/緑の党、そして FDP が連立することで CDU/CSU を下野させる可能性も残る。現在の第 4 次メルケル政権は 2017 年 9 月の総選挙から約半年の政治空白を経て誕生した。CDU/CSU という伝統的な 2 大政党が存在感を低下させたことで選挙が終わっても政権発足に手間取ることが慣例化しつつあり、今回もそうなる可能性が非常に高そうに見える。

～欧州の未来を問う選挙～

ドイツの経済・社会にとって最もショックが大きいのは上述した「CDU/SPD の下野」シナリオだろう。メルケル首相率いるドイツは EU 首脳会議を実質的に仕切っていた。メルケル退場と「CDU/SPD の下野」が重なれば、ドイツの発言力は低下するはずであり、それは必要な EU 改革の意思決定を遅延させるはずだ(メルケル首相が居ても遅延は常態化していた)。誰も仕切れなくなった大所帯が迷走することが当面の EU の政治的懸念として抱かれる。

欧州の経済を見る観点からすれば、「CDU/SPD の下野」も多少前向きな要素を孕むかもしれない。というのも、SPD や同盟 90/緑の党など、左派色が強い勢力が政権を奪取することで緊縮財政を崇め奉るドイツの経済政策が変わる 1 つの転機になる可能性がある。政権末期であるコロナ禍においてメルケル政権は何かと EU のために身を切る立ち回り(復興基金の合意形成など)に尽力することになったが、その任期の殆どを「嫌われ者」として過ごしたことは周知の通りである。アフター・メルケル時代を担うことになる次期政権はそうしたイメージを払拭し、EU の統合・深化にも大きな責任を負うドイツに再生できるかが期待される。その意味で今回の総選挙は「欧州の未来」を決めるイベントとして注目すべきものである。

市場営業部兼金融市場部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2021年8月17日	本邦4～6月期GDPを受けて～完全復元は23年以降に～
2021年8月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年7月分)
	メインシナリオの障害～米消費者マインドの動揺～
2021年8月13日	週末版(「異形の経済」が修正されるドイツ～アフター・メルケル時代へ)
2021年8月11日	世界に範を示す英国の金融政策運営
2021年8月10日	米7月雇用統計～実現に近づくウォー想定～
2021年8月6日	週末版
2021年8月3日	「雇用の最大化」に近づく米国経済
2021年8月2日	アフターコロナを捉えた米政の4～6月期GDP
2021年7月30日	週末版
2021年7月29日	FOMCを終えて～「著しい進展」が視野に～
2021年7月28日	1人負けが鮮明となっている日本の経済・金融情勢
2021年7月27日	「米国買い」をテーマとする金融市場の現状
2021年7月26日	ECB政策理事会を終えて～歴史的な修正～
2021年7月21日	週末版
2021年7月20日	変化の兆候を感じる円相場～需給・物価要因に変調～
2021年7月19日	気候変動オベを受けて～バランスに配慮した素案～
2021年7月16日	週末版(「ドル安見通し」の内情を探る～「需給」でドル安の真実味～)
2021年7月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年6月分)
2021年7月14日	米インフレ率の騰勢とノイズ化するドットチャート
2021年7月13日	気候変動対策に動き出したECB～戦略修正を受けて～
2021年7月12日	猜疑心強まる民間部門～緊急事態宣言と貯蓄～
2021年7月9日	週末版(ECB、18年ぶりの戦略修正の中身～ハト派修正であることは確か～)
2021年7月8日	米金利低下でも買われない円。理由はどこに
2021年7月6日	想定される3つのシナリオ～BIS年次報告②～
2021年7月5日	Pandexitと格差拡大～BIS年次報告～
2021年7月2日	週末版(2021年上半期の為替相場レビュー～下半期はワクチンから金融政策へ～)
2021年7月1日	世界の外貨準備動向～21年3月末時点～
2021年6月28日	22年Q1に完全回復を見込むECB。「次の一手」は？
2021年6月25日	週末版(ワクチン相場の賞味期限とリスク～「ワクチン接種先進国のつまずき」に怯える局面～)
2021年6月23日	やはり無理が出始めた北アイルランド国境管理
2021年6月22日	遂に日銀も踏み出した中銀のグリーン化～その②～
2021年6月21日	遂に日銀も踏み出した中銀のグリーン化～その①～
2021年6月18日	週末版
2021年6月17日	FOMCを終えて～前倒しで進む正常化シナリオ～
2021年6月16日	新たな安全資産の誕生～ハミルトン・モーメントか否か～
2021年6月15日	イングランド行動制限延長も構図は変わらず
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年5月分)
2021年6月14日	ビットコイン法定通貨化に関する考察
2021年6月11日	週末版(ECB政策理事会を終えて～PEPPのその先を考える～)
2021年6月9日	ワクチン追い風に盛り返すドイツ与党～最後の前哨戦～
2021年6月8日	試され始めた「双循環」～元高容認に変調～
2021年6月4日	週末版(米5月雇用統計を前に～どうあれドル/円相場の行く先は変わらず～)
2021年6月3日	「蚊帳の外」感の強まる円相場～細る取引高～
2021年6月2日	着実に進むユーロ圏の日本化とユーロの堅調
2021年6月1日	米インフレ基調の現状と正常化プロセスへの考察
2021年5月28日	週末版(BOE早期利上げ観測の傍らで浮上する英国リスク～試されるワクチンの力～)
2021年5月26日	30年連続「世界最大の対外純資産国」の背後にドイツあり
2021年5月25日	「量」を意に介さないユーロ相場の騰勢
2021年5月24日	「コロナの終わり」で再認識する暗号資産の虚栄
2021年5月21日	週末版
2021年5月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年4月分)
	FOMC議事要旨～テーバリングが必要なのは財政政策？～
2021年5月19日	ECBのテーバリングはあるのか？
2021年5月18日	鮮明になる円に対する低い関心
2021年5月17日	円相場の基礎的需給環境～Q1を終えて～
2021年5月14日	週末版
2021年5月13日	インフレ懸念で米金融政策は動きそうか？
2021年5月12日	連動が戻り始めた米株価と米消費者心理
2021年5月11日	スコットランド独立を巡るQ&A～現状と展望～
2021年5月10日	最近の為替市場に見る「正常化の胎動」
2021年5月7日	週末版(FRBの対話を阻害してしまうイエレン長官の存在～避けたい「院政」状態～)
2021年5月6日	明暗が鮮明になった「米国 vs. ユーロ圏 & 日本」
2021年4月30日	週末版
2021年4月27日	「成長痛」に直面しそうな新興国はどこにあるか？
2021年4月26日	年後半に警戒したい金融市場の「成長痛」
2021年4月23日	週末版(ECB政策理事会を終えて～6月、テーバリングと曲解されるリスクを警戒～)
2021年4月21日	ユーロ圏銀行貸出態度調査～与信環境の厳しさは継続～
2021年4月20日	調整色が強まってもワクチン相場の核心は変わらず
2021年4月19日	為替政策報告の読み方～イエレン長官の思惑は～
2021年4月16日	週末版(長きにわたる正常化プロセスの始まりか～まずはパウエルショックの回避が至上命題～)
2021年4月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年3月分)
2021年4月14日	多様化が進む世界の外貨準備～ドル離れが顕著に～
2021年4月13日	ユーロ相場の展望～盤石の需給が支えに～
2021年4月12日	近年の「年間値幅」をこなしドル/円相場の今後
2021年4月9日	週末版(GFSRも懸念する世界経済の「成長痛」～中長期的に拡がる「金利の無い世界」のフロンティア～)
2021年4月7日	IMF世界経済見通しが示す新興国の憂鬱
2021年4月6日	暗雲垂れ込めるアフターメルケルのドイツ政治
2021年4月5日	米3月雇用統計の読み方～長期失業者割合は上昇～
2021年4月2日	週末版(欧州で台頭するワクチン・ナショナリズム～EU 離脱を象徴するワクチン戦争～)
2021年4月1日	ラガルドECB総裁、「挑発」の真意はどこに？
2021年3月29日	リスクシナリオの点検～上下のリスクを検討する～
2021年3月26日	週末版(現状を理解するための3つのテーマ「金利」「コロナ抑制状況」「原油」～「需給」は小休止～)
2021年3月25日	ドイツ州議会選挙に見る「移民から環境へ」のシフト
2021年3月22日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年2月分)
2021年3月19日	週末版(「実質金利ゼロ」が次の節目？～ハイライトは4～6月期か？～)
2021年3月18日	FOMCレビュー～現状維持に見る強気の足音～
2021年3月16日	FOMCレビュー～ドットチャート&議長会見～
2021年3月15日	期待の米国、不安の日本～コロナ対応の明暗～